



佐渡金山遺跡 道遊の割戸……鉱脈を追って採掘した結果、現在の形となった。

採掘した鉱石は、
製錬工程に回される。
製錬工程の
はじめは粉碎作業である。



廃坑に置き去りにされていたもの。凝灰岩にタガネで地藏菩薩を彫りつけている。



明治に入り、鉱山の設備は近代化された。切石によるアーチ積みとモルタル・切石による「タタキ工法」で造られたこの橋には「佐渡鉱山 三十七年……」の銘板が残る。

春日崎……相川の入江は、海が浅く、船が座礁しやすかったため、灯籠を設置して目印にした。

